

子どもの便秘④ ～便秘治療のアウトライン～

排便困難を伴う便秘症治療の目標は、楽に便が出てスッキリする排便状態(いい便)にして、それを維持していくことです。便のたまりがあれば浣腸などでそれを解除して薬物療法で維持していきます。

- ① まず、肛門の上の直腸に便が詰まっていないかどうかの確認をします。便が詰まっているサインとしては、べとべとした便で下着を汚すことが多い、少量の硬い便しか出ない、5日以上便が出ていないなどです。その場合は浣腸や座薬などで強制的に便塊を除去します。便秘症の経過が長い場合は浣腸などの強制排便をしばらく続けなければなりません。
- ② 便の詰まりが解除されたら、いい便の状態を維持するために、食事や生活習慣の見直しと下剤による薬物治療を組み合わせた維持療法を行います。再発が多いことから維持療法は数か月かかります。

※ 治療管理には、排便日誌を利用します。お子さんの便秘で困っている親御さんはまず排便日誌をつけてみてください。
排便日誌はあおい小児科にありますので、受付にお申し出ください。

次回は食事療法と薬物療法についてお話しします。



7月の感染症情報

手足口病が大流行しました。今年の手足口病は、高熱と口の水泡に始まり、そのあとから手足に発疹が出るケースが多かったようです。発疹も従来の手のひらや足の裏より、膝や肘、臀部などに目立ちました。原因ウイルスとしてコクサッキーA6が分離されています。

シリーズ キッズケア・青い鳥がめざす保育 ④

～ 発達を学び、発達の一步前の活動を知ることで、発達を促す保育を！～

生後8か月ごろ

～知っている世界と知らない世界を知り分ける～

あの人知らないえ～ん！
でも気になる…

知らない世界は怖いけど気になる。この気持ちはやがて探求心につながります。

あのおもちゃ触りたいけど、
遠いからやめとこう

いないいないばあっ！
楽しい！
またしてくれるかなあ？

“発達子どもの
願いから始まる”
白石正久著より

初めての事には不安で泣くことが多くなりますが、「だいじょうぶよ」という大好きな大人のまなざしが、子どもの不安を乗り越える力になります。「やってみたら」とうなずいてあげるだけでも安心するんですよ。



あの高いところに何がある
のかな？立ったら見えるか
な？

次回は10ヶ月頃をします。

7月のご利用状況

7月の利用延べ人数は126名、一日平均利用人数は5.7人でした。年齢別では、1歳児が50名(40%)で最も多く、次いで0歳児の25名(20%)、2歳児の22名(17%)の順でした。疾患別では、手足口病と高熱がでる夏風邪がほとんどで、RSV感染症とアデノウイルス感染症がわずかにありました。手足口病にとびひが合併しているお子さんがありました。発疹の程度が強いお子さんは要注意です。7月の利用のべ人数がキッズケア青い鳥開室来初めて100人を超えました。手足口病が大流行したためですが、少しずつ病児保育が浸透してきているのかなと思います。今後ともよろしくお祈りします。